

トビタテ！留学JAPAN

高校生等壮行会 茂里総合局長が派遣留学生を激励

文部科学省等による官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN」新日本代表プログラム「高校生等対象」【拠点形成支援事業】の第10期派遣留学生壮行会が6月14日、文科省で開催された。

トビタテ！留学JAPANでは、民間企業・団体等から支援を受け、官民協働で若者の海外留学を支援している。第10期は788校1886名の応募から404校717名の



長 派遣留学生が決定。また、高校段階からグローバル人材育成に取り組み留学モデル拠点地域の形成を目指す「拠点形成支援事業」では、石川県58名、静岡県51名、福島県57名、福島



派遣留学生らが「トビタテ！留学JAPAN」の掛け声で留学の成功を祈念(文科省講堂)



船橋氏(左端)からの記念品贈呈後の記念撮影

県32名、高知県31名が採用されている。はじめに文科省総合教育政策局の茂里毅局長が挨拶し「日本社会のグローバル化はまっただけの状況だ。第10期生として世界に飛び立つ、その意義は大変大きい。このプログラムだからこそ得られる仲間、先輩、支援企業の皆様方とのつながりを大切に、自己研鑽に励まれることを期待する」と激励するとともに「他方、米国の留学生受け入れ制限に関する報道が連日されている。そんなときだからこそ我々もしっかりと皆さんの挑戦を支えていきたい」と語った。続いて、支援企業・団体を代表して、東京エレクトロン(株)専務執行役員の長久保達也氏が挨拶を行った。先輩派遣留学生代表の挨拶後、第10期派遣留学生のうち4コースの各代表および拠点形成支援事業の代表(福島)計4名が決意表明を行った。その後、トビタテ！留学JAPANエグゼクティブアドバイザーの船橋力氏から挨拶が述べられ、記念品が贈呈された。第10期派遣留学生は7月から順次、イタリ